

下

特別
子13
3980
3



門子 18
號 3987
卷 3

ToYOKUNI

38

D.162

vol. 2

戲子名所圖會卷之下目錄

曲亭馬琴子編

路考臺 ろこうのうたい

条三橋 じょうさんきょう

野塩峠 のしほのとうげ

扇蝶嶽 せんてつがき

天王寺万菊畑 てんおうじのまんぎくばたけ

大竹屋夫 おほたけやぶ

中嶋和田江 なかじまのわづみ

岩井山杜若堂 いわいさんまじわくどう

小佐川巨撰城 こさがわのこほりけんじょう

中山錦車菴 なかやまのにしんぐるまあん

松本米山 まつもとのおねやま

瀬川路舟岸 せがわのろふねがし

藤藏院半堂 ふじざういんはんどう

山科白十廬 やまのけのしろじゆ



東岡舎羅丈

ききき
こぼさ
秋
り
る

きりぎりすのよ
宗十樓門壽臺

桐谷鬼亭
鳥中嶋

熊十字街
築地善江子



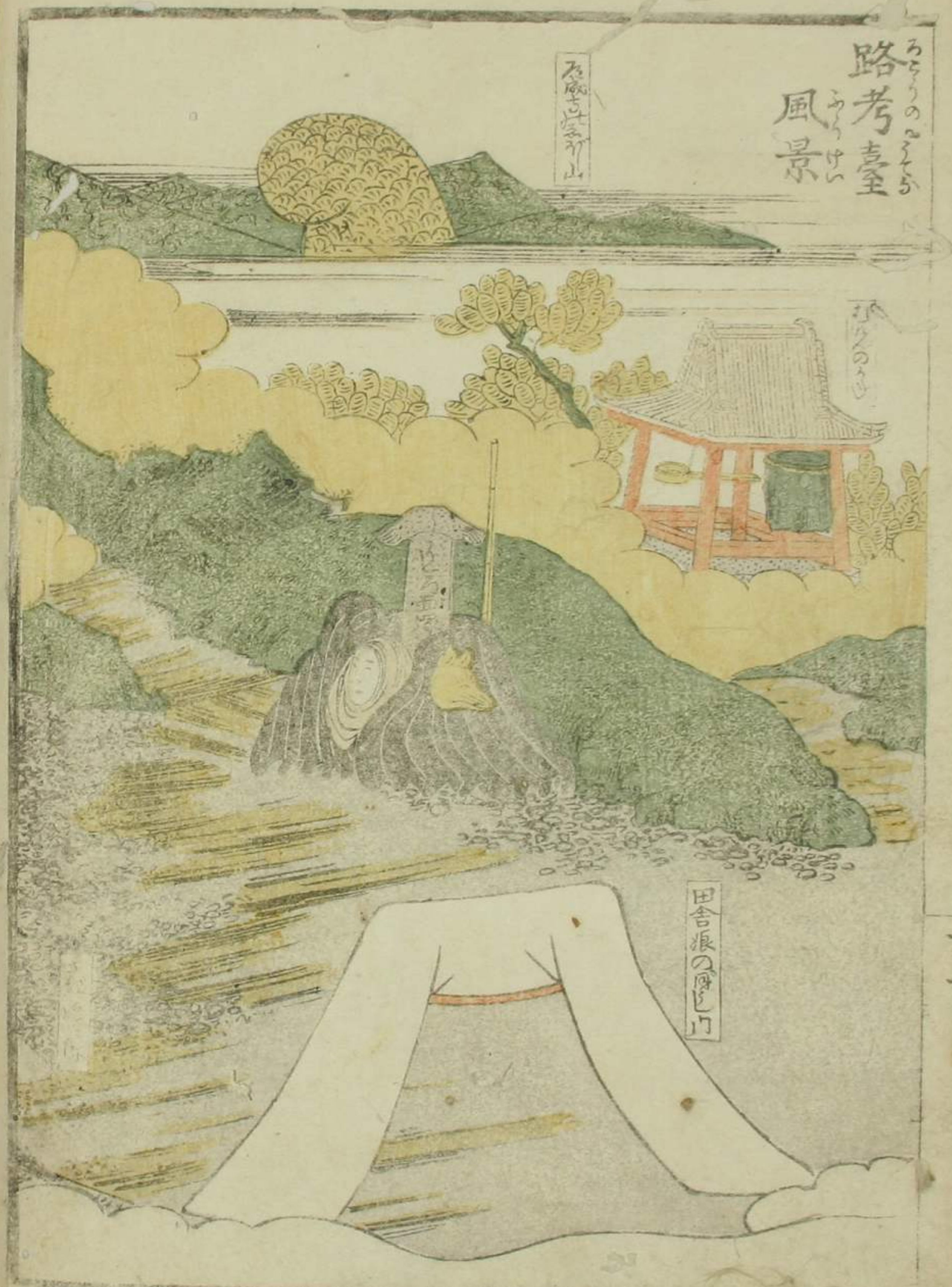
石橋の舟堂

石橋の上

花飛蝶駭不人愁
 執着相生獅子頭
 爭發牡丹繡
 千秋萬歲於

飯類山樵夫

馬 琴



路考臺
 風景

石橋の上

田舎風の門

路考堂

正徳年中の勸請王子は祈子古今娘の氏神なり。今

中興く二代瀬川乃水上渡村に結なあり具負ふ奴の靈地。社殿敷万株の棠花咲きぬれくおのつゝ城の形をなす是より

世の人菊城と呼ばせり。是より亦の神亦能の字あり。踊地判官建立の相なり。當社古来より石指獅子頭此神を以

て。此を牡丹小名なり。同而より本田道成寺の舊跡なり。其の鐘乃由来海内小鳴響く。今ふ芝居の千両箱小納まり。女鳴神

を菴室ハ田舎始の業内小をたれを鶯娘の塚中此隠るあり。てうしろ面の比丘寺ハ此より小續り。お梅久米の宅地女

孫の宮のをたせると後の丸後山ハお初が古々此津原に

歩を時代世話とて念むると又堂なりとて。當亦は石物瀬川帽大や芝居とて念むると又堂なりとて。當亦は石物瀬川帽子路考堂の深物河こう路考堂結綿瀬川艾との平らあり。正。正面乃額ハ赤江流の終末あり。

瀬川八景

道成寺晚鐘

石橋夕照

無間晴嵐

女鳴神夜雨

鶯娘暮雪

山姥秋月

高尾帰帆

羽衣落鳳

岩井山杜若堂

本山ハ大坂四代の座元流かりしが。今ハ京都の冬

下とたり。ハ奉七苑伽藍其宛物。市川流の大比あり。且豫の

暖初まのむ。葉まがねき。是もはちりりち出れ渡。ま



惣本昔寺川山の後見を兼帯せり。寺内小三ッ扇の道あり。此道を
 扇町と云ふ。口法の融大長は祠ハ小山の尻段名神と崇めたり。
 七変化の小町塚馬貝乃禿堂也。こふ堂子院は付をうり門を
 築丸ヶ下山乃古海。その井が子列は流階怪童丸ヶ力石也。
 諸人とも身なる施あり。阿仙々三日月山の碑ハ今此道乃よ
 かと稱す。その外昔亦乃奇階靈室と枚舉るも小違あり。此
 當亦ハ不任天皇乃勅於祈り。地蔵殿亦右経石の再興大和矣。更
 これを執りし由舊記あり。う実不可思儀の霊場なる。那。法行
 無常の慈嘆を。実相を漏の一幕を。是を是生滅法は。大入。八
 流生記。此乃是物を。川く唯此山。うけ妙なり。此妙なり。

此山繁昌也。凡夫觸穢の癡眼を以て。何ぞ此妙乃是非成端
 せん。

ふとらろり 留 彼 紗 河 杜若 柳居

久米三橋 杜若寺の内みり。橋乃形振袖了。似くも。

瀬なり。此をを袖分川。水ハ岩井山。此流
 是より早く見物。落る早濃なり。親ハ正田の林中。生
 每天の洞。社内小総角大河。うり此数々。を射る。的
 場あり。

柳 女 如 那 ころ ぬ くれ

小佐川巨撰城 當城ハ前の小佐川を。更常世。後亂地。蓋云の冠者



三葛丸五丈の縄張り。古今ふ奴の名味なり。妙音
 の立田川を堰入も。ろへ武道乃一筋乃と并。放
 万騎乃え物を引く。仕内と切幕のうらにわぐ。りて
 車を八百八町の外外史。小敵と見てあぶ。大役とん
 く文小忍れど。阿古屋の松乃梅。六尾上は種。の物とけ
 槽三枚の権と突。光陰の矢朱を防。敵役も忍
 とりて疎小おやまの古兵。梅筆。巨撰。杖を。同。ふ
 七菟が出丸の若。魚隣鶴翼の曲。長蛇昇天
 成徳の陣。似。り。

のうへ梅くくのみ山 仙水散人

野塩峠

當所ハ中村紫子院。立お傍の名。ふ。蘭耕山の峠。

山上小天王寺。此を矢車の廻り。麓を中村。と。村

老子丸の舊地。一。と。純系なり。娘道成寺の種。無極七夏

化乃箱。池。女。終。比。奈。の。切。通。若。元。の。仔。な。あ。つ。列。莊。菅。照。相。此

少。叙。へ。ち。野。濫。の。山。小。あり。て。竹。核。五。郎。の。社。ハ。拍。迄。背。像。を

ら。は。と。あ。と。書。画。ハ。能。能。字。比。額。ハ。口。紙。以。く。これ。と。云。く。こ。ま

み。ふ。せ。又。智。石。乃。古。伝。あり。抑。こ。の。野。塩。峠。ハ。老。子。一。流。の。古。師

を。掌。に。入。り。彫。刻。の。言。山。の。信。田。此。葛。の。雪。姫。ハ。

名。本。あ。ま。り。成。り。合。く。乃。成。寺。接。穂。の。梅。ハ。昔。此。本。風。流。と。云

び。て。妙。なり。當。所。小。金。花。寺。の。杜。り。て。い。ま。若。木。の。と。云



野塩峠
 松本米山
 山下万菊畑

松本米山の信



大森山

大森山の信

東岡舎
 中江の水車
 大森山の信

中江の水車

中ちかき。後少一奉まひの太本とあまべし。

中山錦車庵 大見山がふやく此界より。店の構あはしく

床にかけらる無妨。今を日の出乃立物なり。月りしれを
可覧ししく。水際の小ぼくや小挿入は根よ一挺の不化を
まきけり。庭はこせつらびておまのお山ををを沈よ八段
のさく川と堰入は定段の桐戸乃傍おは。芭致のこぼし
咲ふれ。田のまよりを奥ふくく又へく。人ぬれとも風景なり

芭致と上の谷ひら道り。と館に居る。小夜の中山 傀儡子
扇蝶嶽 岩井山の末よりせく山の勢もさく言く。吾輩あり

えと。とらのある。まきをり。世山と。わの新葉時といり。今倍
あつふ。代を山。まきを。は。この人へ通町のまま山とも呼ば
せり。師通の落乃ふよ。はのほけを登ま。又おの声成掛
梅りりく。旅中なり。

松本米山 此山小次の松鶴山よりこれ。今一名を流御山と

号を。ひく。子役乃親る堂。り。時。序り。響の虎松より
け山。乃。子。冬。さ。く。なり。て。今。ハ。松。車。の。文。車。寺。と。建。立。せ。り。
雷の谷より。ふこく。此清水。な。れ。う。て。て。芭。致。を。杖。の
本多。

山科百十廬
 中鷺和田江
 桐谷鬼亭
 熊十字街
 鳥中鷺
 築地善江寺

この人ね

船形まばこそ

こころをき

晋子



大竹やぶ

二の釜の松
山一かの子



初ど色ふ小川と文車ふくろまの合あせのよきてん手てん本ほんを

天王寺万菊畑

山下金化堂根分きんかどうねぶん畑はたけ大崎おほさきあり

かしく天王寺の株くさをうしかりしむ。花はな小こねねのの入いり

忽ち江戸の土つちよあわく。芳かほきき名なを揚あげげんんこと。又また来きるる秋あきと清きよまり

菊きくややくく芽めをを芽めつつるるかかししううねね 嵐亭

瀬川露丹岸

當あ下したのの瀬せ川がわ葉は水みづのの流ながれれてて此こ岸ぎしはは雄ゆう次じ

か葉はのの揚あげげ場ばあり。振ふ袖そで乃な帆ふね掛かねね白しろふふめめるるくくおおし

のふ風ふう名なををと

きくふふくく似にくくむむむむあり 是こゝ乃こゝ芽め

大竹屋おほたけやぶ主ぬし

此こゝ藪やぶ江え村むら音ね江えよりより出でるる竹たけののふふたりたりししぐぐはは芽め小

藝げいのの実みがが入いるる。實じつ悪あく班はんのの大おほ竹たけととたたれれり。此こゝのの口くち松しょう小こ一いち花はなをを

く。古ふる人ひとのの不ふ謂ご野や主ぬしめめとと切きり乃なり若わかきき是こゝををととへへ。

藤藏院半堂

後のち院いんへへととめめ萩はぎ野のふふりり。今いま六む宗そう命めいをを

久ひさくく江え村むら小こ移うつるる。半はん堂どうのの池いけはは江え川がわをを蛙かきもも作つくてて。當あ

世よ小こ様さまのの大おほ木きあり。

中嶋和田江

當あ下したのの中なかつ嶋じま三さん浦うらはは松しょう系けいよりより出でくく。公こう家け悪あく皇こう

子こ松しょう獵りやう乃なり地ちあり。江え戸こ生なむむのの名な木き天てん幸こう寺じ二に階かい堂どうのの松しょう今いま

ハハとと此こゝ声こゑ大おほ平へい楽らくをを奏そうするる小こ似にくく。

山科白十廬

切きり者もの上うへ人ひと閑い居ゑのの菴あんあり。至いた極ごく老らうつつかか。

京きやうあり。昔むかし不ふ終しゆうくく。仕しらられれ大おほむむととははつつふふ名なををとと感かん



楸樹馨香倚釣磯
 斬新苔葉未應飛
 不知醉裏風吹盡
 可忍醒時雨打稀

杜少陵

梅の由を
 古の
 古の

江中石



何久の望柳

八の字の橋

五人桐

希は安んをよくもるこしり。

桐谷鬼亭

此亭を比門を此建ふ亦を比門大谷由村の中通

小ありしが今独立乃被れ門となる。在浦の物類を常用す

て幸く一版の上りの又中三階造り。

熊十字街

板曉坂の古跡よりふけりあり。當正月山よ三石の

礎と止く候とあるよふ男衆をいこく昔れ仗を後せり。

鳥中寫

此處正徳のころ鳥羽の築より名不たりしが今

ハ隆小名のを跡とこし天明の比まで市川の流れ又立し。

築地善江子

坂東三十三所のせれてふし。名のをつる舊

跡なり出ると笑せる。むやみやまん遍の念仏堂あり。戒壇小一庁
の石を建く則六字を彫付り。書して曰許群集入技敷

宗十樓壽臺

紀伊國山沢村の内あり。むどり助高藪高助屋鋪

乃古流あり。今よむて四代古今奇思依の流系あり。其流の水

上は訥子大鳥名神の祠あり。非体と當時大立物武道浪子命小

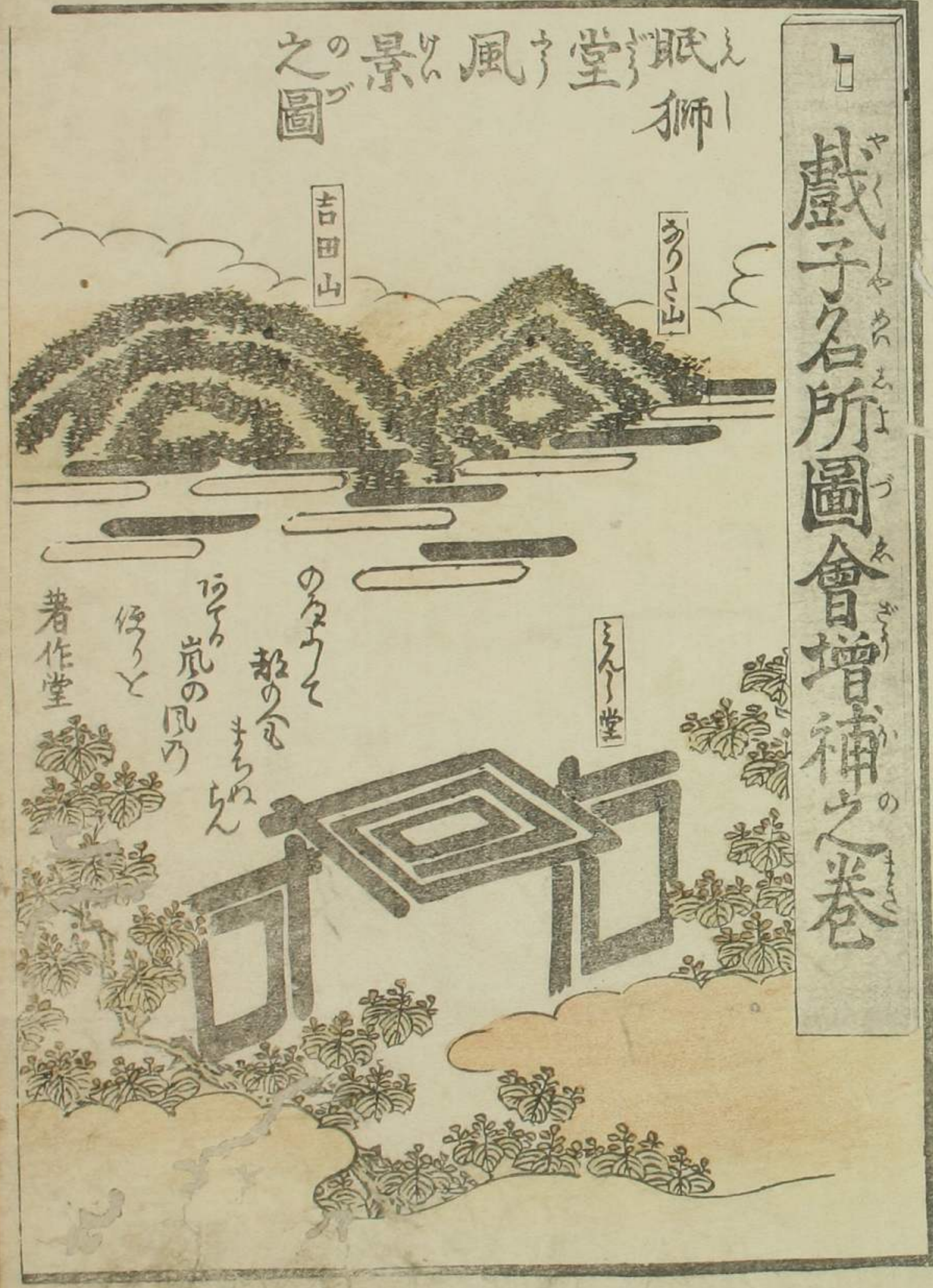
しと。外小仕人の内陣ハ足利親兼此再興清盛入道の像を安

置も。社跡小梅所と西条の跡中石あり。世は宗十樓の頭巾石

いつくそなり。傍小修久宮初乃黒髪の柳あり。其八の文字縁

此所の名所なり。後世伊久馬氏の柳を植るとの。この子と

接本なり。いつく大早由ら乃湊盜賊。此は彼ハ當時の奴



戲子名所圖會卷之下 大尾

古蹟とす。忠信が鞍の院知盛は藤刀の六女が松の並木
 名なく。影で幕を桐の障子にま似人乃内侍の舊地なり。味
 脊山より大判酒を見おろし。菴屋の里より保菜知をア
 ぶせり。文の秋の夕暮小友作の浦に眺む。風流第一の言無
 多し。ゆきと雪不此名物後摩國府より五人切りした
 てたをいハ古今未多あり乃評判多く。千両箱形酒乃本店
 極上と名の名葉とす。大尾。

戲子名所圖會增補之卷



眠獅堂

獅子百獸の王眠獅と優の魁首

小夜嵐三衛法師乃開基して既七代及ぶるや奉旨い

京坂の親玉如來京浪連の若名奉く信の奇依せり塚

内三郊よりよりて廣く小六崎の古迹廟のよと只い

系事の水よりして見人目を驚かすことりり其

風熱乃奇く妙くありし人のさる雨れは

載せば今の眠獅堂のる丙辰の年三月より三

代の名示しあり遠く親の光りをうしつるに

人亦よよりしは侍とされたりし未の冬養堂

建立乃より東都より先人受授の玉と指く戸

の親玉よ海その除光とぬく信人忠義の守を弘む

こころをく江戸子忽ら見復合作の押ひしなり

叶の字所を弄附て三井の門を建立を依く成田山

の眠獅堂と名び做せり塚内小四季の雛市あり云

辺の棧五十四店をうち通し日くく山がとちよ群衆

を六發仙に五石るが東常の雛人形は五人相れ入

りて裸小傍の金名は五人雛子のとちよわめより

しく奉養が巻物巻若ちるが常算旨保丸が上下其

麓よまのり信のねのちわりの雛助のなを揃

一侍まきり高よりしちとせつる也必し門裡雛助ハ

實惠一對のまゝありと早く眠る堂塚門の名物

樵夫あり傍あり花れ六ふ仙
常や雛玉の交り高き啼
暮今冬
羅文

一寛政十二庚申年三月廿日野塚津浪谷の古道より
日年三月廿日岩井山杜若堂古道より
一同年八月より森田体彦にて地を神とありは亦再び迂
坐の縁起あり迂り増補の部(加へて)
一新り改名の役若くは年々増補せしむる由
中なるおぼろしき事求是の如く下い

板元 仙鶴堂

馬琴老人性耽著作雪案窓吮筆
不輟。近日觀新編冊子竊偷費先
生之術釀研底于一書我場一種
天地忽然拾出山川之脚色草木之
部目無嬰造化之機奇新可羅
工拙作圖添獲清景貴介公子奏
映換梨園之遊至翁因果如何

友

湖上再來之笠翁子
肯已未霜月朔暮平洛橋之南
垂柳溪邊山東子之茅

江戸 京山載



武江

曲亭 瀧馬琴撰



一陽齋 歌豐國畫



戲子名所圖會拾遺

嗣刻

剖刷氏

權八



寬政十二年歲次庚申春正月發行

大坂心齋橋筋安堂寺町

八文字屋八左衛門

江戸通油町

鶴屋喜右衛門新鐫

書肆

